

# ADVANCE

TOYOTA TECHNOLOGICAL INSTITUTE

vol.

# 115

MAY 2023

豊田工業大学広報誌



## CONTENTS

2022年度 卒業式・修了式/2023年度 入学式	02
2022年度 卒業・修了生の進路状況/ 学部で新たな入試を導入!	03
2023年度入学式 学長式辞	04,05
内定者の声	06,07
留学体験記	08
NEWS FILE	09,10
本学園理事・評議員 豊田章一郎氏のご逝去 受賞	11 12

## SCHEDULE 行事予定 (6月~9月)

### 入試情報

■ 6月17日	高専第3年次編入学試験 (6/28合格発表)
■ 6月17日	大学院修士課程早期卒業予定者対象特別選抜 (6/28合格発表)
■ 7月20日	大学院博士後期課程夏季選抜 (7/28合格発表)
■ 9月5日	大学院修士課程一般・社会人選抜 (9/13合格発表)

### 学事

■ 7月25日~8月1日	前期定期試験
■ 8月3日~9月3日	夏期休業
■ 8月3日~9月11日	海外英語演習
■ 9月13日~9月15日	トヨタ生産方式概論
■ 9月18日	後期授業開始

### イベント

■ 6月3日	学部1年生対象オープンラボ
■ 7月15日~16日	オープンキャンパス
■ 8月24日~31日	海外協定校学生を招いたサマーセミナー
■ 9月9日~10日	天樹祭、オープンキャンパス

# 2022年度 卒業式・修了式



2022年度卒業式・修了式を3月17日に豊田喜一郎記念ホールで挙行了しました。本年度の工学部卒業生は83名、大学院工学研究科(修士課程)修了生は49名、博士(工学)学位取得者は1名です。

初めに、保立和夫学長から、学部代表の相津知晴さん(知能情報メディア研究室/時習館高等学校[愛知県])、修士代表の中谷千洋さん(知能情報メディア研究室/旭丘高等学校[愛知県])に、それぞれ学位記が授与されました。

保立和夫学長は、「本学で体得した『学修と研究へ積極的に取り組む態度』を活かして、今後の諸活動の中で成長を遂げてほしい。」と告辞を述べました。続いて、学校法人トヨタ学園の増田義彦理事

長および、来賓の方々を代表してトヨタ自動車株式会社 取締役の前田昌彦氏より祝辞をいただき、豊田工業大学シカゴ校(TTIC)のMatthew Turk学長などから祝電を頂戴しました。前田氏は、「社会に出てからも迷うことは大いにあると思うが、みなさんが自分の得意分野を活かして世の中に提供する新しい価値や満足が、これからの日本をもっと強くすると期待している。」と激励の言葉を贈りました。

続いて、卒業生を代表して立穴優太さん(設計工学研究室/トヨタ自動車株式会社/トヨタ工業学園[愛知県])、修了生を代表して井藤優斗さん(半導体研究室/菊里高等学校[愛知県])が、それぞれ謝



保立和夫 学長

辞を述べました。最後に、学業成績・人物ともに特に優秀な人物に与えられる豊田奨学基金賞および派遣企業の会社人学生優秀賞がそれぞれ授与されました(P12掲載)。



トヨタ自動車株式会社 取締役 前田昌彦氏



式典の様子(動画)はHPよりご覧いただくことができます。

<https://www.toyota-ti.ac.jp/student/news/002174.html>

# 2023年度 入学式

2023年度の入学式を4月1日に豊田喜一郎記念ホールで挙行了しました。学部1年108名、高等専門学校からの編入生4名、大学院修士課程50名、大学院博士後期課程1名の方が入学しました。

保立学長より新入生に向けた式辞(P4-5掲載)が贈られた後、増田理事長より「本学での学生生活を通じて、実践力と創造性に溢れた人に成長し、人としての魅力も増していくと確信してい

る。」と祝辞をいただきました。また、TTICのTurk学長からはお祝いのビデオメッセージが贈られました。

在学生を代表し、学部3年の大谷竜平さん(瑞陵高等学校[愛知県])が歓迎の言葉を述べました。また、2023年度入学生を代表して、学部の山内大暉さん(岡崎北高等学校[愛知県])、大学院の武次広夢さん(知能情報メディア研究室/小野高等学校[兵庫県])が、それぞれ

誓いの言葉を述べました。



増田義彦 理事長



式典の様子(動画)はHPよりご覧いただくことができます。

<https://www.toyota-ti.ac.jp/student/news/002187.html>

## 2022年度 卒業・修了生の進路状況

就職  
決定率

# 100%達成

第一志望  
への就職率

# 91%

卒業・修了生の進路(就職は内定状況) ( )は昨年実績人数

(名)

	学部			修士課程			博士後期課程		
	社会人	一般	留学生	社会人	一般	留学生	社会人	一般	留学生
企業復帰	11(7)			2(0)			0(1)		
就職		22*1(36)			44*2(45)			1*3(0)	0(1)
進学		50(46)			1(0)				
その他					1(0)	1(1)			
計	11(7)	72(82)		2(0)	46(45)	1(1)	0(1)	1(0)	0(1)
		83(89)			49(46)			1(2)	

※1 学部3名(一般・就職)は9月末卒業

※2 修士2名(一般・就職)は9月末修了

※3 博士後期1名(一般・就職)は12月末修了

### 一般学生の就職先一覧 (五十音順)

(名)

学部(22名)	
アイシン	3
アルトナー	1
岩谷産業	1
NTT データ アイ	1
JERA	1
スズキ	1
ソニーグローバルマニュファクチャリング&オペレーションズ	1
ダイキン工業	1
タダノ	1
千代田化工建設	1
ディスコ	1
DOWAサーモテック	1
DOWAホールディングス	1
凸版印刷	1
豊田合成	1
トヨタ紡織	1
ニチコン	1
日本トムソン	1
マネーフォワード	1
自衛隊 幹部候補(海上自衛隊)	1

修士(44名)	
朝日インテック	1
イビデン	1
ウェスタンデジタル	1
AGC	1
キオクシア	1
クボタ	1
小松製作所(コマツ)	1
清水建設	1
住友電気工業	2
ソニー	1
ダイキン工業	1
大同特殊鋼	1
ダイハツ工業	1
ダイフク	1
中日新聞社	1
東海理化	1
東京エレクトロン	2
豊田合成	2
トヨタ自動車	7
豊田自動織機	4
トヨタ車体	1
長野オリンパス	1
浜松ホトニクス	1
BIPROGY(旧:日本ユニシス)	1
本田技研工業	1
マツダ	1
三菱重工業	1
三菱電機	1
三菱電機エンジニアリング	1
ヤマザキマザック	1
ヤマハ	1
ヤマハ発動機	1

### 参考 一般学生の就職先企業 累計上位 (学部・修士 1995年~) (名)

アイシン	122
トヨタ自動車	110
デンソー	66
豊田自動織機	66
豊田合成	40
矢崎総業	37
本田技研工業	37
三菱電機	36
ジェイテクト	34
トヨタ車体	31
東海理化	29
トヨタ紡織	28
トヨタシステムズ	18
ソニーグローバルマニュファクチャリング&オペレーションズ	18
住友電気工業	17
アドヴィックス	16
ダイキン工業	16
ダイハツ工業	15
愛三工業	14
フタバ産業	14
キャノン	13
パナソニック	13
スズキ	13
協豊製作所	12
小島プレス工業	11
日野自動車	11
トヨタテクニカルディベロップメント	11
日本精工	9
トヨタ自動車東日本	8
日立製作所	8

### お知らせ

## 学部で新たな入試を導入!

現高校3年生と既卒生が受験する2024(令和6)年度の学部一般選抜では、従来の「共通テスト利用入試」に加え、本学独自の「個別学力試験入試」を、また特別選抜として「帰国生徒入試」、「国際バカロレア入試」も新たに導入します。詳細はHPをご確認下さい。



<https://www.toyota-ti.ac.jp/prospective/news/001484.html>

2023年4月1日

## 2023年度入学式 学長式辞

豊田工業大学 学長  
保立 和夫



豊田工業大学にご入学・ご進学なされた皆さんに、心から歓迎の気持ちをお伝え致します。おめでとうございます。学び舎として本学をお選びいただき、ありがとうございます。ご家族の皆さまも、おめでとうございます。本年4月に、入学・編入学あるいは進学をされて、本学のお仲間に加われた方々は、学部1年108名、学部3年次編入4名、修士1年50名、そして博士1年1名の皆さんです。大学生活は、皆さんがやがて社会人として活動するための大切な助走期間です。学修、研究、そして課外活動を通し、社会人として世界に貢献してゆくための力を十分に鍛錬していただきたいと思います。大学の主役は学生の皆さんですから、皆さんの活動が本学の活力の源泉です。念のため申しますが、大学での活動の主目的は、良い就職先を探すことではありません。ご自身の能力を本質的に伸ばすことです。これができれば、皆さんには、おのずと広範な未来が開かれます。

本学は、トヨタ自動車の社会貢献活動の一環として1981年に開学しました。以来、関連企業の皆様からのご支援に支えられ、本務である教育と研究に関し自由で闊達な活動を展開して参りました。2020年夏にはキャンパスリニューアルが完了し、教育と研究のファシリティが刷新されました。2021年には、開学40周年を迎えています。この間のご関連の皆様方からのご支援・ご鞭撻に、深く感謝申し上げます。

さて、3月22日には、侍ジャパンのメンバーがWBC: WORLD BASEBALL CLASSIC で見事に優勝を果たしました。皆さんも、感動なされたことでしょう。準決勝の試合で村上宗隆選手が決勝打を放って「さよなら勝ち」

をした直後に、栗山監督が「野球ってすげえなあ、とっていただけたら最高です。」と言われた言葉が、私には強く印象に残っています。

侍ジャパンの選手の皆さんを見ていて思ったのですが、「世界一流の腕前を持ったすごい方々には、優しく穏やかなお顔の人が多いな」と。侍チームメンバーの心をつかんで優勝に導いた栗山英樹監督もそうですが、大谷翔平選手、吉田正尚選手、山本由伸選手、村上宗隆選手、そして2月中旬からチームのまとめ役を務めてきたダルビッシュ有選手も、私にはそう見えました。闘志はみなぎっていますが、「優しさ」も「品格」も感じられる方々であると、思いました。大谷選手が、高校生の頃から「目標達成シート」を作ってそれを実践してこられた話は有名ですね。

「艱難辛苦汝を玉にす」という言葉があります。「人は困難に直面し、苦しみ悩みながら克服してゆくことで立派な人間になってゆく」、という意味です。WBCチームに選ばれた選手の皆さんは、間違いなく、人知れず並々な努力を積み重ねられて腕前を上げて来られたのでしょう。そして、失敗しつつも種々考える過程で、心も磨かれ、「優しさ」と「品格」をも培われたのではないかと推察致します。スポーツのみならず、何かを極める努力を続けることが、ひとを人として育ててくれるのだと思います。結果として、すごい選手にはなれなかったとしても、です。

皆さんは、これから本学で「学修」と「研究」、ならびに課外での諸活動を展開されます。これら活動にも、きっと苦勞が伴います。ということは、スポーツ選手の皆さん

と同様に、苦勞しつつも自ら考え工夫して打ち克つ過程において、皆さんも、学修と研究の直接的な成果のみならず、心が磨かれ、人として成長してゆくことになるものと、期待しています。

研究活動で極めて大きな成果を示した代表者として、ノーベル賞受賞者の方々がおられます。お会いしたことがあるその方々も、優しく品格あるお顔でありました。青色発光ダイオードの発明者である赤崎勇先生、天野浩先生、ニュートリノ研究者の梶田隆章先生、通信用光ファイバの提案者であるチャールズ・カオ先生、オートファジーの大隅良典先生に、そのような感想を抱きました。

さて、世界は今も大きく揺れ動いています。パンデミック、戦争、環境問題、等々です。皆さんには、これらにも注意を払い、常にご自身の意見を持ち、社会的責任を果たす社会人になることが求められています。本学は工学系の単科大学ですが、4年制大学の責務として、優れた技術者・研究者になっていただくだけではなく、社会人としての見識も高めた存在へと成長していただきたいと、願っています。

そのために、本学には、専門の学修と研究のほかに、人文学、社会科学、語学、健康・体力学、等々の科目も用意されています。数学、物理学、化学などの理系の基礎科目も、もちろんあります。種々の体験が蓄積できる仕組みも整っています。実験・実習、学外実習、海外英語演習、海外学外実習、International Communication Plaza (iPlaza)での活動、寮生活、サークル活動、大学祭、等々です。もちろん、皆さん独自で読書をされたり旅に出たりと、様々な活動もなさるでしょう。4年次には卒業研究も行います。学部は、基本的に「学修」に重きを置いた「課程」です。一方で、大学院修士・博士課程は、「研究」に重きを置いた「課程」です。

「学修」と「研究」の活動は別々の営みではなく、これらは「皆さんが成長する」という大学が果たすべき機能を駆動する「両輪」なのであって、皆さんの「力」を、幅広く深く鍛錬するための二つの「手立て」なのです。「学修」活動を通じて獲得すべきは、「知識の記憶」ではありません。「理解」です。「帰結」には理由があり、「理解」とは「帰結」に対応した理由に納得するまで考える」ことです。理由を手繰っている間はまだ納得できていないのですから、この学修方法は未知への挑戦です。従って、「理由を手繰り納得する」学修法は、「研究力」も涵養してくれます。

実際、「研究」遂行に必要な態度も、「帰結」に対応した

理由に納得するまで考える」態度です。この態度は、「論理的に考える」ことなので、「学修」「研究」の活動によって、社会活動全般で役に立つ「汎用力」としての「論理的思考力」も、付随して身につきます。「汎用力」には、「コミュニケーション力」「プレゼンテーション力」「協働力」などもありますが、これら「汎用力」の獲得には、学修・研究の方法に工夫が必要です。「暗記する学修法」では、全く役に立ちません。

このように、大学での諸活動を通して、皆さんは専門分野において体系的な「知識と理解」を得ると同時に、やがて社会でご活躍になる際に重要なさまざまな「汎用力」を獲得することもできます。加えて、この間のご苦勞とご努力は、皆さんの心を磨いてもくれて、人として大きく成長することにもなるのです。ただし、このプロセスで最も大切なことは、「常に自ら考える」ということです。そこで、私が大切にしている言葉を、皆さんにお伝えします。「学びて思はざれば則ち罔く、思ひて学ばざれば則ち殆ふし。」論語の一節です。

さて、「少年老い易く学成り難し、一寸の光陰軽んず可からず、未だ覚めず池塘春草の夢、階前の梧葉已に秋声」という漢詩があります。「偶成」と題された朱熹の作です。「若者はアツという間に年をとってしまい、学問はなかなか完成しにくい。だから、少しの時間でも輕輕しく過ごしてはならない。池の堤の若草の上でまどろんだ春の日の夢がまだ覚めないうちに、階段の前の青桐の葉には、もう秋風の音が聞かれる。」

私がこの漢詩に出会ったのは、高校1年の漢文の授業でした。原稿用紙にこの漢詩などの白文をつけペンで書いていた頃を思い出しましたが、あれから既に56年の月日が流れています。正に、「少年老い易く」と、痛感する次第です。

皆さんは、ここ豊田工業大学で、大学生・大学院生としての大切な時間を過ごされることになりました。前述のように、この時間に皆さんは大きく成長する可能性をお持ちです。皆さんが自ら手に入れたこの「空間」と「時間」とを、どうぞ大切に、どうぞ有効に、活用していただきたいと思います。そして、やがて卒業・修了を迎えるその時に、「大学ってすごいなあ、とっていただけたら最高です。」私たちが最善を尽くします。

改めまして、ご入学・ご進学おめでとうございます。



# 内定者の声

豊田工業大学の

## 強みは

何だと思いませんか？

開学以来、高い就職決定率を維持する本学は、2022年度の就職決定率も100%を達成しました。内定をつかみ取った先輩たちに、就職活動を振り返り、本学の強みだと感じたことや、内定獲得につながった経験や学びについて、教えてもらいました。



学外実習での  
現場経験

FILE

久米 克佳 さん(学部)

内定先

ダイキン工業株式会社

設計工学研究室 (五ヶ瀬中等教育学校[宮崎県])

学部1年次の学外実習Ⅰでは、豊田自動織機の製造現場で生産ラインに立ち、学部3年次の学外実習Ⅱでは、就職先として視野に入れていたダイキン工業で、それぞれ4週間の実習を経験しました。ダイキン工業では、最初に社内の生産方式を座学で学び、その後、社員の方々と一緒に工場でのライン作業を経験し、最終的には作業工程における改善のアイデアを発表することが課題でした。発表で求められていたのは、アイデアの実現性よりも斬新さだったので、短期間に集中して参考文献を探し、得意なプログラミングの知識も取り入れながら、創造力をフルに働かせて必死に考えました。その結果、これまでは手動で行っていた作業時間の計測に、トラッキングシステムを導入してデータ化を図る提案をしたところ、着眼点と斬新な発想が評価され、良い印象につながったようです。

研究室ではディープラーニングを専門に学んできましたが、データと向き合うより人と関わる仕事がしたいと感じており、ダイキン工業での実習を通じて、先端技術を追求しつつも「人」を大事にする社風に共感し、志望動機がより明確なものとなりました。社員さんと同じ環境で働き、就職後の具体的なイメージをつかむことのできる学外実習は、大変でしたが、その経験こそが自分の強みとなり、内定につながったのだと思います。

3年次に高専から編入してすぐに就活が始まったので、不安を抱えたままのスタートとなりました。その不安を払拭するため、頻りに足を運んだのが学生支援センターです。スタッフの方に、勉強と就活が両立できるようスケジュールを相談したり、面接練習はもちろん、どんなことでも納得できるまで付き合ってもらいました。単に情報収集の場としてだけでなく、「心の拠り所」として大いに活用しました。

また、指導教員の岩田直高教授には、研究室にプレ配属\*となった時から、進路について度々相談し、いつも親身に耳を傾けていただきました。先生のご指導を通して、私が志望する企業はどのような人材を求めているのかを理解し、私の希望進路とのミスマッチがないかを客観的に分析することができました。

編入生は取らなければならない授業や単位数が多く、3年次は勉強するだけで精一杯だったので、他の人よりも自己PRできるエピソードが少ないと思っていましたが、それでも第一志望の会社から内定をいただくことができたのは、学内の手厚いサポートがあったからこそだと思います。少人数の大学だからこそ、私の性格や思考も理解した上での周囲からのサポートはありがたく、とても励みになりました。

内定先の豊田合成では、私が研究している窒化ガリウム半導体にも力を入れているので、その分野にも興味がありますし、ステアリングの回路設計もやってみたく、今からわくわくしています。

\*研究室には、4年次で正式配属となるが、一定の条件を満たした場合、3年次後期から研究室での指導を受けることができる制度。



パーソナリティも  
踏まえた手厚い  
指導が受けられる！

FILE

三明 純奈 さん(学部)

内定先

豊田合成株式会社

電子デバイス研究室 (豊田工業高等専門学校[愛知県])



モノづくりのプロセスを  
数多く経験

FILE

加川 貴大 さん(修士)

内定先

トヨタ自動車株式会社

流体工学研究室 (春日部高等学校[埼玉県])

内定先の三菱重工業は、原子力事業や防衛・航空・宇宙製品に至るまで広域な産業を支えており、そのスケールの大きさに魅力を感じました。思い返せば、私が小学生の時に参加した三菱重工の工場見学で、火力発電プラントで使用されるガスタービンが何台も並んでいるのを見た時の感動が、就活の原点になっています。その時に受けた衝撃が、モノづくりで日本を引っ張っていく企業で働きたいという今の志望動機にもつながっています。

研究室では、自動車などの機械部品の構造を最適な形にすることで、強度や耐性を向上させる研究に取り組みました。研究室で3台保有している3Dプリンタをいつでも自由に使うことができたので、CADで描いた基礎設計のモデルを、3Dプリンタで製作して評価する過程を繰り返し、最適化に至るアプローチ方法を幾度となく試すことができました。

また、修士課程在籍中には、国内外の学会発表を3回経験させてもらいました。学会発表は、期日までに研究を進めて論文を仕上げる計画性や、資料作成・プレゼン能力などさまざまな力が試されるので、指導教員の下田昌利教授に、毎日のように、きめ細かくマンツーマンで指導していただきました。国際会議で研究発表を行った際は、研究室の外国人研究員にとことん練習に付き合ってもらい、英語が苦手な自分でも、最終的には英語で発表できるまでのスキルを身につけることができました。学会発表を通じてこれらの力を磨くことができたのは、少人数で、教員や研究員との関係が近い本学ならではの研究室の環境があったからだと思います。

私

は、小型飛行物体の翼がもつ機能や性能についての研究をしており、実験装置や翼の模型を作る際に、創造性開発工房(Eiji工房)\*を頻りに利用しました。Eiji工房には、実際のモノづくり現場を知っている企業派遣講師が常駐しており、マンツーマンで指導を受けることができ、授業時間以外は自由に利用できるため、多い時は毎日のように足を運びました。頭で考えた実験のイメージを具体的に設計し、その設計内容を工房で形にする、できあがった装置を使って実験する、そのプロセスを結果が出るまで幾度となく繰り返しました。モノづくりの工程を何度も経験しているからこそ、その難しさを肌で感じ、座学だけでは得られない、作ってみて初めて学ぶことがたくさんあります。これは、充実した実習工場を学生が最大限に活用できる本学だからこそ、身につけられた力だと思います。

また、研究活動は一から十まで全て一人でやるのは不可能で、どこかのタイミングで必ず誰かの手を借りる必要性が生じます。学部1年次の寮生活や、入学時から続けているビーチラグビー同好会を通じてこれまで築いてきた縦横に広がる人脈により、研究も就活も周りに相談しながら進めることができました。内定先では、生産技術の開発に携わる予定ですが、これまで経験してきたモノづくりのプロセスや、周囲と協力しながら物事を実行していく力は、これから先も必ず生きてくると思います。

\*創造性開発工房(Eiji工房)  
実際の製造現場でも使われる設備・装置を使ってモノづくりを学ぶ実習施設。企業出身の技術指導員から指導を受けながら、代表的なモノづくりの技術と安全な作業のための知識を身につける。また、研究用部品の製作など研究活動への支援も受けられる。



充実した研究室の  
環境

FILE

内匠 祐太郎 さん(修士)

内定先

三菱重工業株式会社

固体力学研究室 (滝川第二高等学校[兵庫県])

# 留学体験記

欧州でインターンシップを体験する「ヴルカヌス・イン・ヨーロッパ」に参加した  
修士1年の和井内琴理さんに、現地での貴重な体験についてお話を伺いました。

**ヴルカヌス・イン・ヨーロッパ** (一般財団法人 日欧産業協力センター主催)

将来の日欧関係を担う若者育成のため、日本の理工系学生を対象としたプログラム。EU加盟国での語学研修4ヵ月ならびに、企業でのインターンシップ7ヵ月\*に参加する。本学からは、2015~2022年度の間7名が参加。  
※新型コロナウイルス感染状況により、プログラムが一部変更となる場合がある。

## 物事はあまり難しく考えすぎない!なんとかなるさ!!の精神も大事

情報記録工学研究室 修士1年 和井内琴理さん(掛川西高等学校[静岡県]) TOEICスコア: 970

【研修先企業/研修内容】

**IDIADA AUTOMOTIVE TECHNOLOGY SA**

2022年8月~2023年3月にかけて、自動車の設計・エンジニアリング・テスト・認証取得サービスを提供するIDIADAのパートタイム部門チャージングチームに派遣された。車両の安全性開発全般に関するパッシブセーフティエンジニアリングとテストサービスを提供し、顧客向けの開発プロジェクトにも参加。(2022年4月~7月の4ヵ月間は、現地の先生による語学研修をオンラインで毎日5時間受講し、スペイン語のスピーキングや文法を中心に学習。)

## ✖ スペインでのインターンシップ内容を教えて下さい。

インターンシップ先は、自動車メーカーから依頼を受けた安全性に関するテストを実施し、自動車の検査をするIDIADAというスペインの会社でした。私は電気自動車と充電器の相互運用性のテストを実施するパートタイム部門のチャージングチームに派遣され、最初のうちは世界の充電器のブランドやケーブルの種類などの情報をリサーチしてまとめるマーケットスタディを任せられました。日本の自動車メーカーとの仕事を担当することもあり、会議に参加して、英語で議事録をまとめることもありました。

初日に上司から、「英語での会話は禁止だよ。」と言われ、最初の数ヵ月はとてもしんどい思いをしましたが、そのおかげでスペイン語でのコミュニケーションにも徐々に慣れていきました。

そして、電気自動車と充電器のコミュニケーションが、定められたプロトコルに従っているかを確認するテストのサポートから始め、充電中に停電が起こったらどうなるかなど、安全性に関するチェックを行いました。問題があれば自動車に原因があるのか、充電器の問題なのかを考察し、レポートをまとめました。研修に慣れてきた頃には、一人でテストを任せられるようになり、非常に嬉しかったことを覚えています。



スペイン派遣のヴルカヌス・プログラムメンバーで、皆の休暇を合わせてスペインのビルバオ(Bilbao)に行った時(左が和井内さん)。インターンシップの事や生活面で困った事、将来の夢なども共有して、共に高め合えた最高の仲間です。

大切だと気が付きました。

現地では、チュニジア人、ギリシャ人、メキシコ人の留学生や現地のスペイン人学生とアパートメントシェアをして生活したのもいい思い出です。文化や宗教の異なるメンバーで熱い議論を交わしたり、お互いの国の料理を作って振舞ったりと、多様な価値観や、常識や考え方の違いを感じ、世界は広い!と思いました。スペインでは、電車が時間通りに来ないなど、日本では当たり前のことが通用せず、最初はストレスを感じましたが、慣れてくると、「物事をなんでも難しく考えてはいけない!なんとかなるさ!!」と、自分の考え方や気の持ちようを柔軟にしていこうと思えるようにもなりました。



歴史好きなルームメイトとギリシャ旅行に行き、遺跡巡りをしたことも。

## ✖ 今後のビジョン

入学前から、大学では英語を頑張ると決めていたので、独学でTOEIC対策をして、それなりにTOEICの点数もよかったです。ですが、学部2年の時に海外英語演習に参加して1ヵ月フィリピンに行き、全く英語が話せないと気がきショックを受けました。

それからは、iPlazaを積極的に活用し、海外ドラマを見たり洋楽を聞いたり、英語に触れる時間を増やしました。今回の留学中に、ヨーロッパを一人で旅行しましたが、英語でのやり取りに困ることはなく、自分にもできるんだ、と自信になりました。

スペインでインターンシップに参加してみて、世界から見た日本の自動車メーカーの圧倒的な存在感と高い評価を再確認し、日本の底力を改めて認識することができました。だからこそ、日本の企業で英語の話せるエンジニアとして活躍し、日本と海外の懸け橋となる存在になりたい、それが今の私の夢です。

## ✖ 留学して感じたことや心境の変化について教えて下さい。

将来は英語の話せるエンジニアになりたいと思っていますが、インターンシップに参加する前は、エンジニアにとって一番必要なのは専門知識だと思っていました。しかし、実際に現場で働いてみると、もちろん専門知識は大事な要素ですが、それ以上にコミュニケーションや、チームワーク、信頼関係など、周りの人たちとうまく関わっていくことが、円滑に仕事を進めていくうえで

# NEWS FILE

FILE-01

## 第3回スマート光・物質研究センターシンポジウム(3/2)

2017年3月に設立した「スマート光・物質研究センター(センター長:大石泰丈教授)」のシンポジウムをオンラインで開催しました。東京大学大学院工学系研究科 准教授の武田俊太郎氏による「光

量子コンピュータの現状と展望」、株式会社Mogura代表取締役社長 久保田瞬氏による「メタバースの最新動向や関連ビジネスの動向」と題した招待講演のほか、本センターの研究成果の発表を行いました。



センター長の石井泰丈教授

FILE-02

## モノづくり+データサイエンスを融合「データサイエンス実践集中演習」を3月に初開講(3/6・7・10)

モノづくり現場での問題解決にデータサイエンスを応用できる人材の育成を目指して、本学独自の教育プログラム「モノづくり志向型データサイエンスAI教育プログラム」を2022年度より新たに導入しています。本プログラムの一環として、企業の開発現場で取得された実データを題材に、3日間の集中演習形式で学ぶ「データサイエ

ンス実践集中演習」(学部2年生以上が履修対象)を3月に初めて開講しました。演習の中で、学生は少人数のチームを構成し、データサイエンス・機械学習技術による問題解決を実践し、最終日には成果発表会を行いました。このような学修機会の提供を通じて、AIの利活用によるモノづくりの高度化を実現できる人材の育成を目指しています。



FILE-03

## 2022年度 次世代文明センターシンポジウム(3/9)

「これからの時代の人間教育を問う」と題して、次世代文明センター主催のシンポジウムを対面とオンライン同時配信で開催しました。未来予測が困難な時代において、来るべき次世代の教育のあり方や、次世代に求められる人間像などについて縦横無尽に議論しました。

大学 特任教授・創造的リベラルアーツセンター長/フランス文学・フランス思想)のお二人にご登壇いただきました。

講演者として、村上陽一郎氏(東京大学・国際基督教大学 名誉教授/科学史・科学哲学)と、石井洋二郎氏(中部

両氏の講演の後、本学から保立和夫学長と江口建教授(人文科学研究室/哲学)がパネリストとして加わり、パネルディスカッションを行いました。江口教授が司会を務め、両氏の発表から論点を取り出したうえで質問を投げかけました。また、聴講者から寄せられた質問やコメントを基



シンポジウム終了後、両講師を囲んで(前列左から2番目:村上先生、右から2番目:石井先生、前列右:保立学長、後列中央:江口教授)

に、活発な質疑応答を行いました。各自が、これからの時代の人間教育のあり方に想いを馳せる時間となりました。

FILE-04

## 第35回半導体プロセス実習・講習会を3年ぶりに対面開催(3/23)

本学では、企業・学校関係者を対象とした半導体技術全般の知識を習得するための半導体プロセス実習・講習会を毎年開催しています。今回は、半導体微細加工の基本技術による熱電対の作製を実際に行い、測定評価まで

の一連の工程から、基礎とノウハウの一端を体験しました。また、関連する講義としてマイクロマシンや半導体デバイスと作製プロセスの基礎、および本学クリーンルームを活用した研究成果や産学官での活用事例を紹介しました。



FILE-05

## 寮生への指導力と成果を評価 ~2022年度 久方寮サポーター優秀賞を授与~(4/5)

久方寮でのコミュニケーションの学生指導を通じて、後輩の学修成績や寮生活全般に対して、素晴らしい成果を挙げたサポーターに、毎年優秀賞を授与しています。2022年度は、森川真衣さん【修士1年/固体力学研究室(雲雀丘学園高等学校[兵庫県])】、神谷亜優さん【修士1年/固体力学研究室(西尾高等学校[愛知県])】、淡島大晴さん【学部4年/電子デバイス研究室(天白高等学校[愛知県])】、3名の受賞者が選ばれました。

コモンユニットの学修成績が年間を通じて好成绩で、後輩サポーターを4名輩出した点が評価された森川さんは、「寮内で皆と一緒に食事することができないなど、不便なことも多かったが、サポーターを楽しんでいる姿を後輩には見せてきた。」と話しました。

また、コロナ禍で休止していた地域との交流を積極的に促し、地域清掃やソフトボール大会の運営を担った防災交流委員の神谷さんと淡島さんは、「地域の方と交流できるイベントが復活できて嬉しい。ソフトボール大会で豊田工大チームが惨敗

したのが心残りなので、来年はリベンジを果たしたい。」と意欲を見せました。

したのが心残りなので、来年はリベンジを果たしたい。」と意欲を見せました。



左から保立学長、神谷さん、淡島さん、森川さん、学生部長の齋藤教授

卒業生のプロボクサー 嶋田光高さん(テルのび太選手)が新入生向けに講演(4/13)

2 020年度に学部を卒業後、現在は自動車メーカーに勤務しながら緑ボクシングジムに所属し、テルのび太の名前でプロボクサーとして活躍を続ける嶋田光高さん【量子界面物性研究室/文徳高等学校【熊本県】】が、新入生向けに講演を行いました。入学後まもない新入生に、今後の大学生活を有意義に過ごすための秘訣や体験談を語ってもらうことで、高い志を持つきっかけになっ

てほしいと初めて企画されました。嶋田さんは、「大学生活をより豊かにするために」と題し、本学入学後に本格的にボクシングを始め、学部2年次にプ

ロテストに合格した後、同年にフェザー級の中日本新人王に輝き、学業とボクシングを両立させてきたエピソードについて話しました。「勉強でもそれ以外でもいいので、夢中になれるものを見つけたい。そして外の世界にもネットワークを広げ、真の友人をつくることで、大学生活だけでなく人生そのものがより充実したものになってくると思う。」とエールを送りました。

講演の後は、参加者全員でボクシングの体験を行い、聴講した新入生・教職員にとって大いに刺激となる講演会となりました。



4月2日に行われたメインイベントの試合で着用した、本学のロゴワッペンが縫い付けたボクサーパンツを手に講演する嶋田さん。

人事紹介

新任



高分子化学研究室

阿南 静佳 助教

- 2019年3月 北海道大学 博士後期課程修了
- 2019年4月 北海道大学 博士研究員
- 2019年9月 九州大学 助教
- 2023年4月 本学助教に着任

主な研究分野

結晶とソフトマターという異なる分子集合体に着目して研究を行っています。結晶は分子や原子が高い規則性を持って配列している状態ですが、ゲルや液晶といったソフトマターは秩序性が低い一方で柔軟性や刺激応答性を有します。ナノサイズの孔の空いた結晶とソフトマターを組み合わせることで、高分子やゲルの新しい合成方法の開発や刺激応答性の結晶といった新しい材料開発などを行っています。

退任



左から市橋正彦教授、保立和夫学長、安松久登教授

クラスター研究室\*受託客員教員の市橋正彦教授、安松久登教授が2023年3月31日付で本学を退任しました。両教授は1997年に本学赴任後、26年間にわたり株式会社コンポ

ン研究所の東東京研究室(千葉県市川市)でクラスター科学の研究を行いました。これまでの研究活動および成果に関する教職員向けの講演会を3月20日に行い、市橋教授は「クラスター科学の基礎研究」、安松教授は「26年間の研究成果を振り返って」と題し、クラスター研究室の紹介と併せて、これまで取り組んできた研究内容を解説しました。

\*1996年にトヨタ自動車が発立したコンポン研究所では、少数の原子や分子からなる集合体(クラスター)の物性、反応性および機能性を研究しています。この研究を担うユニットとして「クラスター研究室」の名称で本学組織に組み入れ、教育・研究領域の拡充と質的な向上を図ってきました。

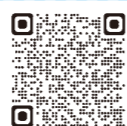
ご支援いただきました方に ~寄付特典のお知らせ~

本学の教育・研究活動にご賛同、ご支援いただける方からのご寄付をお願い申し上げます。ご寄付の際は、**【税額控除制度】**をご活用いただけます。今年度中に寄付いただいた方には、ご厚意に感謝を込めて、もちろん本学オリジナルトートバッグを進呈致します。ぜひご検討下さい。

▶ 寄付金額：一口2,000円から

▶ プレゼント期間：2024年3月31日寄付申込分まで

寄付に関するお問合せ先：経理部 経理・調達グループ(052-809-1714)



<https://www.toyota-ti.ac.jp/about/donation/donation.html>



本学オリジナルトートバッグを進呈します

本学園理事・評議員 豊田章一郎氏のご逝去

本学園理事・評議員で、トヨタ自動車株式会社 名誉会長の豊田章一郎氏が、2023年2月14日にご逝去されました。豊田章一郎氏には、1981年の開学当初より長きにわたり、本学園理事および評議員として、本学の教育、研究、運営における多大なご貢献をしていただきました。これまでのご功績を称えとともに、謹んでお悔やみを申し上げます。

ここでは、2017年2月に行われた榊裕之前学長との対談をもとに編集された冊子「志をもって~未来を切り拓く若い人へのメッセージ~」から抜粋したお言葉や、本学での思い出の写真を紹介します。



1992年8月に行われた「佐吉像動座祭」豊田英二初代理事長(右)と鞍ヶ池記念館から移設された佐吉像を巡る。

「豊田綱領は、トヨタグループの事業の原点ですが、次世代を担っていく人たちにもしっかりと受け継いでいってほしいと思っています」

豊田綱領の一節「研究と創造に心を致し常に時流に先んずべし」は本学の建学の理念となっています。



1985年3月第1回卒業式で来賓として祝辞を述べる豊田氏。

「大学受験のために勉強に専念した気持ちを切り替えて、ぜひ視野も見識も、人間としての幅も広げていってほしいと思います」

2017年に新しく生まれ変わった久方をご覧になられ、このような感想を述べられました。



2011年3月に開催された先端フロンテックセンターシンポジウムで、研究成果ポスターを閲覧する様子。

「産官学で知恵を絞って改革をスピーディーに進めていかなくてはならないと思っています」

「過去を振り返り、未来についてお話し」という問いに答えてのお言葉。



写真は開学30周年記念懇親会(2012年5月)でのご挨拶の様子。

「世界に目を向けて、大きな夢を描き、自立した人間として自主的に考え、主体的に行動していくことが求められていると思います」

日本の次世代を担う若者に対するコメント。



写真は2013年1月に開催した「Innovators Plaza t-COMPASS」オープニングセレモニー。

「向上心に燃えた若い人たちが、元気に生き生きと楽しく働き、活躍する仕組みを構築していくことが、活力ある企業や社会、そして国を築いていくことになっていきます」

日本の次世代を担う若者に対するコメント。



2014年9月の新キャンパス地鎮祭では、建設資金をご支援いただいたトヨタグループ各社を含む来賓の方々との安全をお祈りくださいました。

「これからもしっかりと前を向いて歩いていくつもりです。皆さんも頑張ってください」

対談の締めくくりのお言葉は、私たちへの励ましの言葉でした。

# 【 受賞 】

## 学 内

### ■ 豊田奨学基金 研究賞 研究業績賞・研究奨励賞

#### 〈研究業績賞〉

教員が単独または共同で行った研究で、完成度が高く、学術あるいは技術の発展に寄与するところが大きく、大いに社会に貢献すると認められる研究に対し、その業績を顕彰することを目的として授与する。

#### 〈研究奨励賞〉

将来の進展が大いに期待される萌芽的研究を行った教員およびポストドクトラル (PD) 研究員に対し、さらなる研究推進の奨励を目的として授与する。

受賞名	受賞者	研究業績・テーマ
研究業績賞	大下 祥雄 教授	シリコン太陽電池の高機能化に関する研究
研究奨励賞	趙 越 PD研究員	中赤外ハイパースペクトラルイメージングの開発と応用展開

### ■ 豊田奨学基金賞

学業成績・人物ともに特に優秀な学生に授与する。

受賞者	研究室名
学部：武次 広夢 (小野高等学校 [兵庫県])	知能情報メディア研究室
修士：湯浦 聡史 (知立東高等学校 [愛知県])	流体工学研究室

### ■ 派遣企業の会 社会人学生優秀賞

勉学・研究に励んできた優秀な社会人学生に授与する。

受賞者	研究室名
学部：新庄 康太 (トヨタ自動車株式会社/豊田工業高等学校 (現 豊田工科高等学校) [愛知県])	知能情報メディア研究室
修士：小谷 征也 (矢崎部品株式会社/上野高等学校 [三重県])	知能情報メディア研究室

### ■ 英語優秀賞

学部卒業時に、英語Step-Up Point (E-SUP) 制度\*の獲得ポイントが上位の学生に授与する。

受賞名	受賞者	E-SUP ポイント	研究室
英語 最優秀賞	新保 克樹 (前橋高等学校 [群馬県])	401	知能情報 メディア研究室
英語優秀賞	武次 広夢 (小野高等学校 [兵庫県])	325	知能情報 メディア研究室
	相津 知晴さん (時習館高等学校 [愛知県])	273	知能情報 メディア研究室



左から英語担当の原教授、武次さん、新保さん、相津さん、保立学長

\*英語Step-Up Point (E-SUP) 制度…入学から卒業まで継続的に英語を学ぶことを狙いとした本学独自の制度。TOEIC L&R (公開およびIPテスト) への取り組みをはじめ、各種英語イベントへの参加などを通じてポイントを獲得する。なお、卒業には100ポイント以上獲得することが必要となる。今年度、卒業生の平均は149.4ポイント。

## 学 外

各学会から、人格・学業ともに優秀であると認められた者に授与する。

受賞名	受賞者	研究室
日本機械学会畠山賞 (学部)	山根 大輝 (豊田工業高等専門学校 [愛知県])	固体力学研究室
日本機械学会三浦賞 (修士)	湯浦 聡史 (知立東高等学校 [愛知県])	流体工学研究室
自動車技術会大学院研究奨励賞	藤田 隼平 (浜松北高等学校 [静岡県])	固体力学研究室
精密工学会東海支部学生優秀賞	時吉 純平 (豊田工業高等専門学校 [愛知県])	マイクロメカトロニクス研究室
計測自動制御学会優秀学生賞	武次 広夢 (小野高等学校 [兵庫県])	知能情報メディア研究室
計測自動制御学会優秀学生賞	中谷 千洋 (旭丘高等学校 [愛知県])	知能情報メディア研究室
計測自動制御学会中部支部賞学業優秀賞	相津 知晴 (時習館高等学校 [愛知県])	知能情報メディア研究室
電気学会東海支部長賞	新庄 康太 (トヨタ自動車株式会社/豊田工業高等学校 (現 豊田工科高等学校) [愛知県])	知能情報メディア研究室

### 編集後記

海外渡航もようやくコロナ禍前の状況に戻りつつあり、海外留学に挑戦する学生も再び増えてきました。ADVANCEでは、挑戦・成長する学生・卒業生・教員から目を離さず、彼らの活躍する姿を発信していきたいと思っております。